



景況DI値は回復へ増進。経済回復の期待が高まるも、オミクロン株の流行に不安

概況(全体)

12月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが16.7%(前回調査5.1%)、「悪化」が40.0%(同47.5%)で、業界全体のDI値は-23.3となり、前月調査と比較し19.1ポイント回復した。

全国及び東北・北海道ブロックにおいても、12月のDI値は改善の方向に推移している。非製造業を中心に回復基調ではあるものの、全体ではコストの増加が続いており、価格への転嫁が課題となっている。

業界別の状況

製造業は、業況が「好転」したと回答する数が増加し、「悪化」したと回答する数は減少した。

また、非製造業においては、「好転」したと回答する数が大幅に増え、「悪化」したと回答する数は大きく減少した。

12月は新型コロナウイルスの感染も全国的に減少し、消費行動や年末年始の人流が活性化したことから、非製造業を中心に前年同月比のDI値は回復に向かった。しかし、コロナ以前と比較すると売上額では遠く及ばないという声も非常に多い。

全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-23.3	-16.6	-20.1
製造業	-29.1	-13.6	-16.8
非製造業	-19.4	-18.7	-21.8

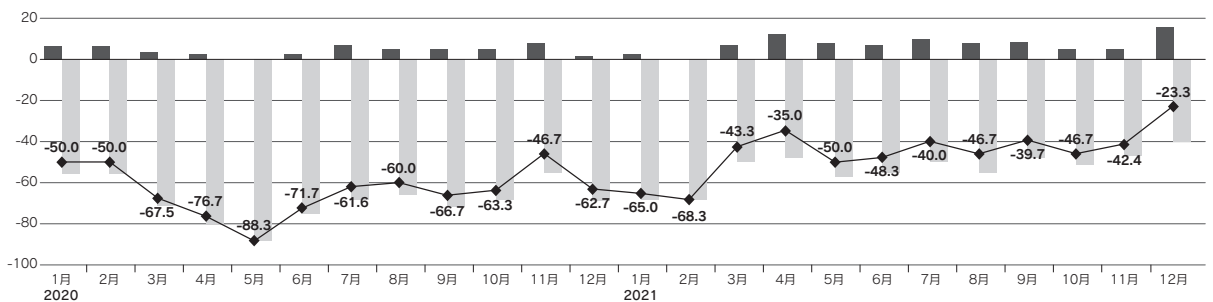
景況天気図

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☔	☁	☔	☁	☔	☔	☔
非製造業	☔	☀	☔	☀	☔	☁	☔

【凡例】
 雷雨 -30以下
 雨 -30超 -10未満
 曇り -10以上 10未満
 晴れ 10以上 30未満
 快晴 30以上
 【天気図の見方】
 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

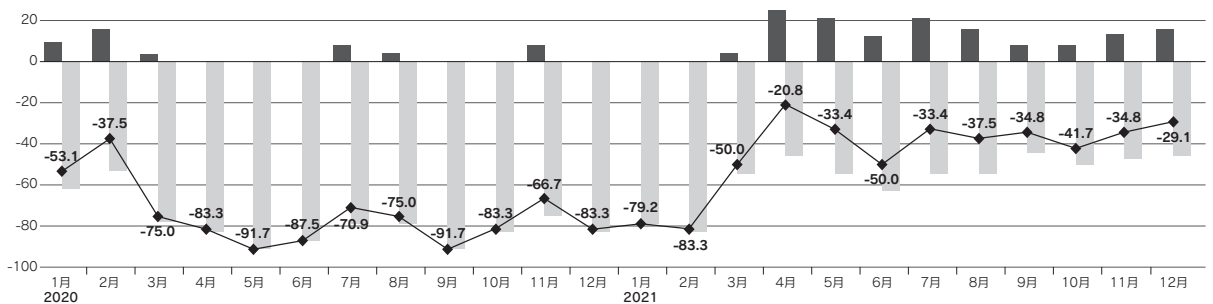
【景況DI値の推移[前年同月比]】

業界全体



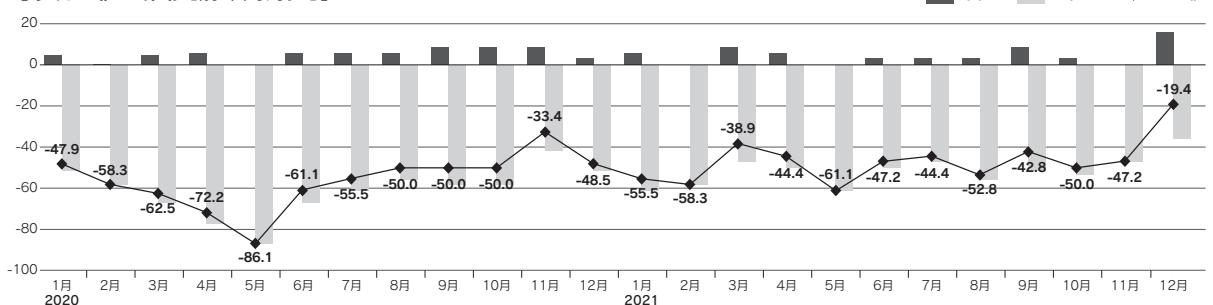
【景況DI値の推移[前年同月比]】

製造業



【景況DI値の推移[前年同月比]】

非製造業



●製造業

(回答数:24名 回答率:100%)

【食料品(菓子)】

洋菓子店などは、クリスマスケーキの注文とその売上が前年より伸びた所が多かった。しかし、クリスマス以降は厳しい寒さで人も少なく売上に繋がっていない。

【食料品(パン)】

燃料価格の高騰により利益が出せない状況である。そのため1月1日より大手を中心にパンの価格を改定している。これにより利益の改善は期待できるものの、売上が減少する可能性を秘めている。

【繊維工業(繊維)】

業界全体の傾向はコロナ直後よりは持ち返しており、春物のオーダーは順調に推移している。しかし、半年先など長期的な見通しは立っていない。経済の回復傾向に便乗するため、販売先を含めた経営戦略を見直す機会としたい。

【木材・木製品(一般製材)】

12月の受注量は県外(関東・北陸)県内ともに順調に推移し、製品価格も変化なく収益も確保できた。一方で、原木の供給が不安定で、原木仕入価格の値上がりが見止まらない。1月~2月は厳しい寒さから、生産量は通常の3割程度の減少を予想している。

【印刷(印刷)】

消費動向に動きが見え始めているものの、依然として厳しい状況は継続しており、仕事が少ない状況での安値受注が引き続き発生している。また、1月からは各種印刷用紙・材料等の値上げが実施されている。

【鉄鋼・金属(鉄鋼)】

鉄を始めとする原材料の値上げに加え、木材・樹脂類などの梱包資材、塗料類、切削油・潤滑油等の油脂類、ガソリン・軽油などの燃料高など、製造にかかわる多くの経費が高騰しており、利益を圧迫している状況である。もうしばらくはこの状況が続くと思われる。

【一般機器(金属加工)】

12月に入って組員各社とも企業規模に応じた受注を確保している。しかし、資材の不足や燃料の値上がり、就労者不足など、厳しい経営課題を抱えている。

【生コンクリート】

12月の出荷数量は前年比92%前後で推移し、4月~12月累計で98%前後と予想される。地区別では能代山本地区が前年の反動から半分以下となった。各地区とも原材料等の値上がりにより、来年の4月から価格改定を検討中である。

●非製造業

(回答数:36名 回答率:100%)

【卸売業(野菜青果)】

新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い、ホテル・飲食店等の業務用需要の回復が期待されたが、期待したほどの回復は見られなかった。

【小売業(みやげ品)】

12月の売上は前年同月比56%であった。令和元年度対比においては43%である。地域的に冬は閑散期となるが、コロナ感染が落ち着いていた12月であっても、従来の販売状況には戻ってはいない。

【小売業(家電)】

半導体不足でエアコン、給湯ボイラー、ウォシュレット、エコキュート等が品切れとなっている。また、年末にはテレビも品薄となったことから売上が10%強の減少となった。

【商店街(湯沢市)】

今月は県の商店街補助金を活用した3割引商店街イベントを実施(23店舗)したことから、前年同月よりはにぎわいがみられた。また、飲食店等は行政のコロナ対策助成金等もあり既存の収益水準を確保した。しかし、一般的に少子高齢化による人口減少が、静かな脅威として地域の経済活力を削いでいる実感もある。

【サービス業(旅行)】

コロナの規制緩和で国内旅行が増え、売上の前年同月比では264.1%であった。しかし、令和元年度の同月比では33.2%であり、コロナ以前の売上には遠く及ばない。

【サービス業(建築設計)】

高止まりで落ち着いた建築資材もあるが、少しずつ値上がりしている資材もあり、建設コストへの不安が続いている。しかし受注の大きな落ち込みはない。

【建設業(リフォーム)】

12月はコロナ感染が落ち着いたことから引き合いは増加した。しかし、新品のボイラーについては入荷の目処がたっていないほか、便器についても2~3ヶ月の納期となっている。引き合いが増加しても対応できない場合が増えている。

【運輸業(トラック)】

売上は前年同月比で増加となっているものの、利益については前年同月比で微増から横ばいの傾向にある。12月の燃料価格は、値下げとなったものの依然高値で推移しており、利益の悪化に影響が出ている。なお、1月の燃料価格は、値上げの見込みとなっている。

*DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。